《バス DATA》
●利用者数／1日約29万人（平成21年度）
●運行便数／1日13,882便（平成22年度）

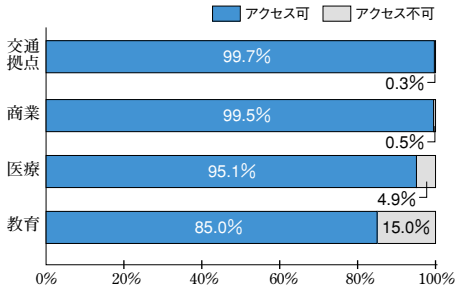
家のそばから、街の中まで、札幌にはバスがある。

市内に初めてバスが走ったのは大正時代。その後、昭和5年に市営バスの運行が始まりましたが、昭和40年代から厳しい経営環境が続き、平成16年には全路線を民間事業者に委ねました。札幌市は事業者への補助などを通じて、路線の維持に努めています。

意義　住まいと街をつなぐきめ細かい地域の足

バスの強みは、全160路線に及ぶきめ細かいネットワーク。駅などの交通拠点、医療施設や商業施設へは95%以上がバスで到達できます。また、地上を走るため乗降も手軽。低床車両も順次導入されており、高齢者にも優しい乗り物です。このほか、地下鉄麻生、真駒内、発寒南駅やJR手稲駅などから出る午前0時以降の深夜便といった、便利なバスも運行しています。

■バスで行くことのできる施設の割合



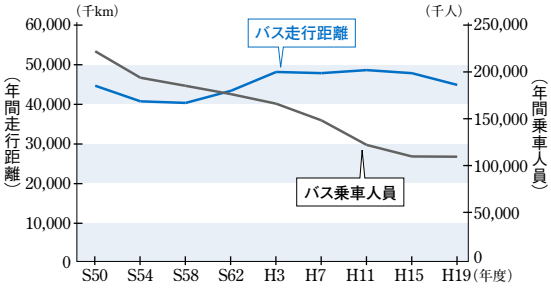
地下鉄駅などの交通拠点へはほぼ100%、商業・医療施設へも9割以上がバスで行くことが可能

課題　利用者減に歯止めがかからない

バスの利用者数は近年、減少傾向が続いています。その主な理由は、自家用車の保有台数が昭和50年から約3.5倍に増えるなど、車社会が進展したことに加え、少子化によりバス通学者が減少したことなどが挙げられます。

平成14年の規制緩和により、バス事業からの撤退がしやすくなったこともあり、採算の取れない路線を維持していくことが困難になっています。

■バスの年間乗車人員と走行距離の推移



乗車人員は減少する中、バスの走行距離は横ばいで維持されているため、経営は苦しい状況

取り組み　路線を守るための利便性の向上と支援

採算の取れない路線でも、市民生活に欠かせない足であれば、運行を続ける必要があります。そこで市では、平成21年に新たな補助制度を創設し、赤字路線に対し、約7.5億円の補助を行っています。事業者も、効率的で使いやすいバスの運行に取り組んでいますが、何よりも皆さんの積極的な利用が、バス路線の維持には欠かせません。

この春に新設「創成川公園線」

新名所である創成川公園の沿道や、北海道四季劇場の前などに停車。札幌駅ともつながり、都心内の細かな移動に便利な路線です。